かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

例年より早く見頃を迎えた桜
（4月1日 大教会神苑で撮影）

さあ！おたすけ　祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード 集計：６２，１８４枚
平成２７年２月２１日～３月２０日
累計：７９７，７６０枚

一万人のおぢばがえり　集計：３７７人
平成２７年１月１日～３月２０日
累計：１，４４１人

立教178年
4月号

おたすけの心を培う 学生会活動

2・21 学生層育成者講習会 開催

学生担当委員会

大教会学生担当委員会（山野弘実委員長）は2月21日、森井葉子先生（本部学生担当委員・名古屋大教会長夫人）を講師に迎え、大教会2月月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催、241人が参加した。学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていく事を目的に毎年開催しているもの。

森井先生は、ご自身の生い立ち・子育ての道中の話を台として、若年層育成の大切さを感慨深く話された。

講話要旨は次の通り。

◎育てる者も育てられる者も　互いに成人の努力を

少年会にしても学生層育成にしても、対象とする人が違うだけで、若い人に信仰を伝えるということにおいて大切な活動です。

昨年の学生担当者大会で、真柱様は、今、全教が教祖百三十年祭へ向かって、一歩も二歩も進んだ私たちの成人の姿を教祖にご覧いただこうと、一手一つに歩んでいる真っ只中にあります。教祖のひながたを励みに、たすけ心をもって人を育てる苦労を味わい、工夫を重ね、真剣に通る道の先には喜びがあります。育てる側の者と、育てられる側の者、両者が互いに成人していく姿を教祖にご覧いただき、一人ひとりがをやのお心にお応えできるよう、役目を果たし、末代かけての道を一手一つに進んでくれますことを・・・お願いします。

（『学生担当者報』VOL.335）

とお言葉をくださいました。

学生層の育成は若くて元気な人がするものだと思うかもしれませんが、そうではなく、先に道を歩いている私たちが、若い人に心を掛け声を掛けみんなでこの道の有難さを伝えるという、そういう空気が大切だと思います。

学生層とは高校生・専門学校生・大学生・大学院生などのことです。お道では、15歳までは親の心通りの守護、その後は皆銘々の心通りとお聞かせいただきます。17歳になったら別席を運びおさづけの理をいただき人だすけのできるよふぼくとして生まれ変わることができます。

一般的には、思春期から思春期を卒業したばかりの年代です。この時期は厳しい社会に出る前の準備段階、とても大切な年代でもあります。

しかし、その大切な時期に心が不安定になったり、人と接することができなくて引きこもってしまったり、何事も続かなかったり、いろんな悩みで心を倒してしまうことも少なくありません。

学生の中には、髪の色もカラフルで、高校生で綺麗に化粧している人も大勢います。女子のスカートはとても短く、見てもドキッとするときがあります。

でも派手に見える子どもも、話をしてみると普通の高校生・大学生です。純粋なものを持っています。私たち大人は、子どもたちの元々持っている良いところをちゃんと見てあげ、そして引き出してあげないといけないと思います。

◎先の成人を楽しみに、信じて育てる

私は、男1人（23歳）女4人（26歳、昨年末結婚した25歳、高3、小6）の子どもをお与えいただき、親としていろんな勉強をしました。

特に上の2人は、いろんなことがありました。朝、学校に行ったはずなのに「まだ来られていませんが」と学校から電話をいただいたり、生活指導の先生から「たくさん校則違反をされています、生活態度を改めてください」と叱られました。また、懇談で「最近は真面目に授業に出られるようになりました」と真剣な顔で仰ったときは、授業にはきちんと出ていると思っていたので、まさに青天の霹靂（へきれき）で、ひたすら頭を下げて謝るのみでした。時折、髪の毛が茶色になったり眉毛が無くなったり、親として注意しましたが、まさか娘たちがそんなに自由に学校生活を送っているとは思ってもいませんでした。

母親として呑気といえば呑気ですが、そんな娘2人も休みの日は喜んで鼓笛隊活動をしたり、教会のひのきしんをしたり、親神様・教祖のお話を素直に聞いてくれたので、髪の毛の色が茶色くても眉毛がなくても、お詫びをしながら心の底で娘2人を信じて通っていました。

そんなあるとき、娘の担任が生徒た

ちに「人のことを大切に思える大人になりなさい」と話されたそうです。そのときに突然、「ワルはワルでも、森井はただのワルではない、人のことを大切に思えるワルだ」と言われたそうです。娘は、この一言以来、段々と身なりも生活態度も落ち着いてきました。

今では、2人とも私よりお道に熱心になってくれています。遠方から身上の信者さんが帰ってこられたので、おさづけを取り次ごうと思うと、「さっき娘さんに取り次いでもらいました」と驚かされたり、日々、ひのきしんやおたすけを喜んで努めることのできる子になってくれました。

おさしづに、

若い者寄り来る処厄介、世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切。（中略）年の行かん者我子より大切、そうしたなら、世界からどういう大きい事に成るやら知らん。

（明26・6・19）

という皆さんよくご存じのお言葉があります。

確かに、時には若い者は厄介に見えるかもしれませんが、見た目や行ないと心の中は違います。また、中には子どもたちにとって辛い様々な生活環境・家庭環境により、知らず知らずに心のバランスを崩し、自分を素直に出せなくなってしまっている子どもや、居場所を見い出せずにいる子が実はとても多いです。

そんな若い人たちにとって、娘の担任のように、親の心を持って私たちの心の奥底の良心を見つけてそれを引き出してくれる人が必要です。

以前、母から「子どもが何かのことで言い訳をしたら、それが嘘でも、親だったら騙されてあげなさい。」と言われたことがあります。ついつい子どもを問い質（ただ）してしまう自分にとって耳が痛い言葉でしたが、言われたとおりにしていると「お母さんはいつも私たちのことを信じてくれた、それがうれしくて素直な心になれた」と今でも言ってくれます。

教祖のみ教えを聞いて知っている私たちは、自分の子はもちろん、人の子も我が子と同じ心で一人ひとりを大切に思い、温かい心で子どもたちに接し、悪いところを見て心配する前に、その子の良いところ・素直な心を引き出せる人にならなければなりません。

そうしたら、きっとその子たちが教祖のよふぼくとして大きな働きのできる大人に育ってくれると思います。

去夏の学修で高校生と共に生活しましたが、私がいた寮は学修初参加の高2・3の女子寮でした。笑いあり涙あり感動ありで、とても楽しく勉強になりました。

その中で一番心に残ったことは、受講生たちの「来たとき」と「帰るとき」との表情の違いです。初日、受付のときは、皆一様に不安気な表情で、話しかけても笑顔もなく、早く帰りたいというオーラが自然と出ている子たちが多くいましたが、学修が終わり帰るときには、生き生きとして一人ひとりの良さをしっかりと発揮できている表情をしていたことです。

学修期間中に、私が学生たちにお話しする時間があり、お話は予めある程度考えていましたが、いざ学修が始まって受講生の様子を見ていると、準備してきた話ではダメだと思い始めました。

概ね（おおむ）元気で明るくていい子たちですが、その中に、とても悲しそうな顔をしていたり、しらけている様子の子や、悲しみや寂しさが滲み出ている受講生がいて、期間中その子たちのことが気になって仕方ありませんでした。

そこであの子たちは何を求めているのか、どんな話なら心に届くかと考え続け、とうとうその時間がきました。

冒頭に「この1週間、私は皆さんのお母さんだと思っています。母として娘に是非伝えたいことをお話ししします。」と前置きしてお話ししました。その中で赤ちゃんがお腹に宿ってから生まれてくるまでのDVDを見てもらいました。そこでは「一人の赤ちゃんがお腹に宿り、その胎児がこの世に生まれてくることは、まさに奇跡だ、神業としか思えない」と言っていました。

私は「この奇跡こそが親神様の御守護であり、その奇跡ともいえる御守護をいただいて生まれてきたのが皆さんです。ですから皆さんはたまたま生まれてきたのでは決してありません。親神様が一人ひとりにお掛けくださる大きな思いがあるのです。即ち皆さんが生まれてきたことには意味があり、親神様にとって皆さんは、可愛い大切な子どもだ」ということを伝えました。

そして「親神様のお掛けくださる思いは何か、また、皆さんが生まれてきた意味は何かを知ることによって、今までよりももっと生き生きと、仮に今まで寂しい思いや辛い思いが多かった人でも心に明るさが生まれ必ず明日が開けてきます」という話を、例えを交えてしました。

すると話が終わってから2人の学生が私のところまで来てくれ「先生有難う。本当にうれしかった。これからも頑張れます」と涙を流しながら言ってくれました。その2人はお互いに自分たちの手を取り合って「良かったねえ、良かったねえ」と泣き続けていました。

また、別の生徒は、学修に来たときから表情がなくどこか寂しさが漂っていましたが、お話の最中その子を見ると、私の方をまっすぐに見ながら、両目から大粒の涙をぽろぽろと流していました。その生徒は、修了式のとき私のところまで来てくれて、私の手を握り涙を流しながら「先生有難う」と泣き続けていました。

今でも時折、涙を流し続けていた子どもたちの心の中に何があるのか、何が足りなくて何を求めているのかと考えることがあります。

私はこの経験から、世の中には、自分は何で生まれてきたのか分からず、自分の存在価値を見出せないで心寂しい思いをしている子が想像以上にいることを知りました。物質的な豊かさはあっても人の心の温かさに飢えていて（これは特に家庭において）、その心寂しい環境の中から自分の必要性を感じ取れない子が多いように思います。

それをなくすためには、先ず、私たち大人が、我が子そして若年層に対して、温かい言葉と温かい手を差し伸べること、また、自分の必要性を感じてもらえるように「あなたたち一人ひとりは大切な人だ」ということを話し、その上で、親神様の御守護と教祖の温かい親心を伝えることがいかに大切かということを改めて感じました。

先ほどのおさしづの続きには、

十のもので九つ半大切して、半分だけ出けん。十のもの半の理で九つ半まで消す。よう聞き分け。

（明26・6・19）

というお言葉が続きます。

私は、正直、今ひとつ意味が分からなかったので、この度じっくりと勉強しました。

簡単に言えば、日々一生懸命に御用していても、我が子を始め、厄介といわれる若い者をほっておいては、一生懸命に通ってきた九つ半まで消えてしまうという、大変重要なおさしづです。それぞれに預かる教会・家庭を思うと、いかに我が子・若い者を育てることが大切か、決して疎かにしてはいけないということが分かります。

そしてまたこのお言葉の続きには、

日々という、言葉一つという、これ聞き分けてくれるよう。

（明26・6・19）

とあります。

要するに、若い人を育てるのに大切なことは、特別なことではなく、私たちの日々のあり方、また言葉遣いを振り返り、子どもたちに映せるような姿、喜びの多い姿に先ずこちらがなることが大切だと教えられます。

◎夫婦の治まりが豊かな心と信仰の喜びを伝える

このおさしづから悟られることを、学生層育成という枠を超えて、もう少しお話しします。

人は、それぞれに前生の因縁を持って生まれてきますが、元々、素直で純粋な三才心を持っていると思います。それではそんな純粋な子どもの成長にとって何が一番大切かと言うと、それは先ほどのおさしづから思案しても、特に子どもたちの両親の日々の姿だと思います。

みかぐらうたの第二節のお歌では、先ず「ちよとはなし かみのいふことをきいてくれ」と、わざわざ親神様が私たちに聞いてくれと前置きをされ、その次に「夫婦」のことを仰っています。夫婦の心さえ治まれば、泥海からこの世・人間を作られたのと同じだけの守護をくださると教えられていると私は悟っています。

しかも毎朝夕に必ずつとめるおつとめの中にこのお歌があるということは、自分の子どもを育てる上にも、人様を導きおたすけする上にも、全てにおいて夫婦のあり方・心の納め方が大切だと思います。

私の里の父は6年前に出直し、昨年2月、母が92才で出直しました。私は、男3人女5人兄弟の末っ子です。私たち兄弟は、何の取り柄もありませんが、今、有難くお道を通れるのは両親のお陰だと思っています。母の出直しが

きっかけで、懐かしく昔を思い出してみました。

そこには常に仲の良かった両親の姿があるばかりでした。特に母はいつも私たち子どもたちに対して、「お父さんは素晴らしい方や、みんなが元気でおれるのもお父さんのお陰や」と、二言目には「お父さんのお陰」ということを言っていました。何か嬉しいことがあればお父さんのお陰、人から褒められてもお父さんのお陰、極め付けは、私の手をさすりながら「綺麗な手をしているな、お父さんの手に似てて良かったなあ」と言ってくれました。逆に悪いことがあったときには、「お母ちゃんのせいや、お母ちゃんに似てんなあ」と言います。

また私の嫁ぐ日が近づくと「主人は拝むもんや。いつも拝んで通りなさい。」と教えてくれ、「喧嘩して腹が立っても後ろ姿を拝ませてもらうんや。いつも夫婦の心合わせる努力をするんや。夫婦の心がピタッと合ったら子どもは落ちへん。心が離れたらその隙間から落ちてしまうで」と教えてくれました。

私が幼い頃、地方へ出かけると、母はいつも休む前に、おぢばの方へ向いて参拝しますが、おぢばの方向が分からないと、もうすでに休んでいる父に向かって参拝します。幼心に「何でお父さんのことを拝んでるの？なんか死んだ人みたい」と尋ねると、母は「おぢばの方向が分からへんからお父さんを拝んでいる」と言っていました。

そんな母の横で、父も母のことを大切に思い、私たちに「お前たちは幸せや、お母ちゃんの子で良かったなあ、お母ちゃんみたいになりや」と嬉しそうに言ってくれます。今思うと、いろんなことがあったと思いますが、お互いが自分のことを横に置いて、相手のことを思い合い、許し合い寄り添って通っている両親の姿は、親神様のお心に叶った姿で、私たち子どもそんな両親に絶対的な信頼と安心感が持てたと思います。そして、幼い頃は、両親を通して親神様・教祖を見つめ、その親神様・教祖への思いも、途轍（とてつ）もない温かさの中にいつも私たちをお守りくだされているという安心感と、信じる心を持てたと思います。

子どもは純真で無邪気なものです。その子どもたちに豊かな心と信仰の喜びを伝える一番の道は夫婦の治まりだということを、今一度振り返り心の基本として通りたいと思います。

◎行事に参加させることの意義

真柱様は、学生層育成の行事に対して、その行事に参加して何でも話せる友達ができ楽しい時間を過ごせるだけではなく、その行事で、将来、親神様の思召に添った陽気ぐらしができるその基礎作りが少しでもでき、信仰上のことでも来て良かったと、親神様の思召・教祖の教えについて少しでも分かるようになって帰ってほしいと望まれています。

学生担当委員会では、本年度の活動方針を

『おたすけの喜びを学生に！』
～あらきとうりよう・みちのだいとして共に育とう～

と掲げています。

一年を通して、学生を対象とした行事が沢山ありますが、それらに掛ける心は、全て、親神様の御守護に感謝の心を持ちおたすけの喜びを知ってもらえるようにということと、学生会だけではなく、教会や青年会・女子青年の活動にも繋がってもらえるようにというところにあります。

●学生生徒修養会（学修）

学修は、春には大学生、夏に高校生を対象として開催されます。

私の教会でも、毎年、受講した学生が、おたすけの心を養って帰ってくるのがはっきりと分かります。今、私の大教会・詰所では、二十代の若い人が中心となって、毎日、神名流しやにをいがけに出ています。それは、この学修を経験した人たちが中心となっています。

中には、「学修に行って天理教に対する見方が変わりました。僕が今まで思っていたのは天理教ではありません。こんなに素晴らしい教えだということを初めて知りました。」と言って、今では、熱心に学生会や鼓笛隊活動に力を注いでくれる子もいます。

●春の学生おぢばがえり（春学）

3月28日に、春学を開催します。1日だけの開催で、忙しい学生も帰りやすい、参加しやすいと思います。

午前中の式典では、学生が、直に真柱様のお言葉を頂戴します。その後、各直属詰所で直属教会長様からお話をいただき、親睦行事で繋がりを深め、夜には模擬店や迫力あるステージなど

盛りだくさんの企画の後夜祭が開催されます。

この度の春学のテーマは

世界の友にをやの思いを

～たすけの旬に、喜びの心で！～

です。

中心になって企画準備を進めている学生がいますが、彼らは親神様のご守護と教祖の親心の有難さ、この教えの素晴らしさを教えて貰って知っています。

また彼らは知っているだけでなく、いろんな経験からこの教えが真実の教えであることも身を以て解っています。

その学生たちが一人でも多くの友に、この真実の教え・親の思いを伝えたいと願い、それぞれが心定めをして、休みもなく準備を進めています。

来年は、「教祖130年祭学生おぢばがえり大会」として、毎年の参加者の倍に相当する1万人の動員を目指して開催の予定です。数に拘（こだわ）っているのではなくて、「まだこの有難い教えを知らない友に知ってもらいたい、おぢばに帰って親の心に触れてもらいたい」という、学生たちの心の底から湧いてきた思いを表した数だと思います。

今年、春学に帰った学生が、来年は、友達を誘って帰ってくる。その輪を拡げることが学生たちの年祭活動であり、それに私たち大人もしっかりと力を尽くしたいのです。

●行事に参加してもらうということ

以前、ある先生から「おぢばからの声を一生懸命に人様に伝えて、いろんな行事に参加してもらえる様に丹精することも、大切なおたすけです」と聞いたことがあります。

私の長女は、小学校のときからこどもおぢばがえりに毎年、友達を誘っていました。小6のとき、甲状腺の身上を患い両方の頬が少し膨らんでいる友達を誘っておぢばがえりに参加しました。医者からは「その身上が原因で、一生、生理が来ないかも」と言われたそうですが、おぢばがえり参加2日目に、何とその子が生理になりました。その有難いご守護にその子の親御さんも大変喜びました。

それから何年か経って、私は軽い気持ちで「学修に誰かお友達を誘ってみたら」といってみました。すると娘が必死になっていろんなお友達を誘い始めましたが、そのときに「行くっ！」と二つ返事で言ってくれたのが、そのお友達でした。全く天理教でない友達でしたので、1週間の天理教の中での生活に少し心配しました、学修から帰ってきた彼女はすっかりお道の子らしくなっていて「来年も是非参加したい」と言ってくれました。結局、高2の学修も2人で参加し、高3のときには、長女は学校の都合で参加できませんでしたが、その友達は娘が居なくても参加してくれました。

3回目の学修から帰ってきたその子は、「参加している子たちの中には悩みや苦しみをたくさん持ってる子がいる。その親たちはもっと教祖の教えを勉強して子どもに接するべきだ」ということを主人と私に力説してくれ、主人も私もびっくりするやら嬉しいやらで、学修というところは凄いところだと思いました。

高校を卒業してからは、その子とも連絡が途絶えていましたが、最近になって私も娘もその子のことが気になり、「何とか連絡をとってまたおぢばに誘えたらいいね」と話をしていると、ある日その子から娘にフェイスブックの友達申請が来ました。娘も喜んで連絡を取ってみると、もう既に結婚して子どもも居ることがわかりました。この1月に子どもを連れて実に8年ぶりのおぢばがえり、とても懐かしがって喜んでくれ、「また是非おぢばに帰ってきたい。子どもが大きくなったら必ず学修に行かせる」と笑顔で言ってくれたそうです。

また、学修で別席を2席まで運んでくれましたが、結婚してもその席札を大切に持っていて、これからまた別席を運ぶことも約束してくれました。

この嬉しくも有難い一件を振り返って思うのは、声をかけたのは私ではなく娘です。娘はきっと私に言われるまま、人間思案もなく素直におぢばの行事に友達を誘っただけだと思いますが、その素直さで1人の友達を導くことが出来たと思います。

「私たちがかける一言はその後のお道への繋がりになる」ことを信じ、誘ってみようと思う子がいたら、お互い、ひるまずに声をかけたいと思います。

学生会の行事はこの他にも沢山あります。学生にこれらの行事に1回でも参加してもらえたら、きっと大切な何かをつかんでもらえると思います。そしておさしづにもありました様に、

お道の上でとても大切な一人ひとりになってくれると思います。

教祖130年祭のこの旬、大切なおたすけの一つでもある学生層育成の上に、今まで以上に心をお掛けくださり、これからもご尽力をお願い申し上げます。

《以上要約》

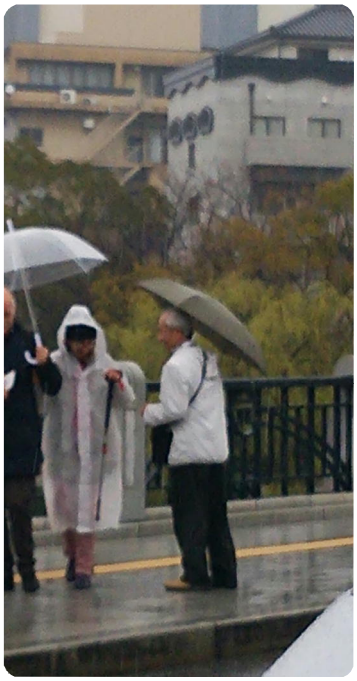
広島平和公園での外国語パンフレット配布

海外部

3月18日、広島へ到着する頃雨が降り始め、降雨の中、世界平和を祈念しおぢば方向に向かいよろづよ八首をおどらせて頂いた。それから6人と子供1人が3グループに分かれて約1時間、パンフレットを手に外国人旅行者達に声を掛けた。広島平和公園に訪れる海外からの旅行者は、過去の経験から世界に平和を発信する場所を感慨深い気持ちでいつも回っている。声を掛けた39グループの旅行者達は、フランス・アメリカ・イギリス・カナダ・ニュージーランド・オーストラリア・スペイン・ドイツ・南アフリカなどの10の国々からであった。今回初めて参加した宮本泰徳廣町分教会長さんは、「数々の外国人との出会いはにっこり笑顔で楽しかった。にをいがけのチラシを渡せたことは有難い喜びでした。諭達を英語で勉強しているのに、お道の英単語が出てこなかった事を反省に、次の参加に備えたい。」と感想を述べられていた。

次回は9月を予定しています。どなたでも参加可能です。一緒に世界だすけに向かいませんか。

（海外部長　上原志郎）



[Tenrikyo]の名前を知って貰うだけでも...

降雨の中で世界平和の祈念のおてふり

「テッチャンシアター」開催

3月月次祭後

少年会

3月21日、春休みにはまだ少し早いですが、土曜日と祝日とが重なって少年会では大教会祭典のあと「テッチャンシアター」を開催させて頂きました。

神殿にはたくさんの少年会員です。今回の担当は少年会の上原宏恵先生と大きなクマサンです。みんなと一緒にじゃんけんゲームをして遊びました。終わりにはお下がりのパンを一つずつ頂いて解散しました。

子供たちの声が神殿に響くのはとても有難い事ですネ。かなり「テッチャンシアター」も皆さんの中に浸透してきた様に思われます。わずかな時間、わずかな積み重ねですがこれからも続けていきたいと思います。

今度は6月です。大教会で待ってます。

（少年会委員　丸山哲子）

クマさんに興味津々

よふぼく勉強会開催
テーマは「みちのだい」

3月月次祭後　育成部

育成部（吉岡壽部長）では3月21日、祭典終了後、会議室に於いて岡﨑豊子弥高山分教会長夫人を講師に迎えてよふぼく勉強会を開催、23人が参加した。岡﨑先生は話しのはじめに、婦人会創立100周年記念第92回総会に於いての真柱様のお言葉を引用され、「みちのだい」とは婦人会員と捉える人が多い様だが、教えを身につけ艱難苦労の中でも先を楽しんで、どうでもこうでもと通り切る人の事をいうと参加者とともに再確認された。続いて今は亡き大教会の奥様方の陰での働きや、日々の通り方を紹介され、その後先生の主人である会長の身上を通して、次男が教会の後継者となるまでの心の葛藤と、受けてくれた時の会長の喜びを語られ、信者家庭の育成について、つなぎ袋を用いておさづけ拝戴までのご守護の過程を話された。

その後、朝の連続ドラマ小説の中での格言を通して、お道でよく使う言葉ではあるが、親の心というものがいかに大きいかを改めて気づかされたり、北陸新幹線開通を例えて教会に人が寄り集う事の大切さを話された。最後に昨年の婦人会総会に於いての婦人会長様のお話しを朗読され、自身がこの一年間を振り返る中での反省と、昨年出直された主人である会長のお蔭でこの場を持たせて頂けた事へのお礼を述べられた。

質疑応答の中で自身の長男・会長の教祖年祭ごとの出直しという節について、苦しい中も教祖がお導き下されている事を心の糧にして残りの十ヶ月間、教祖百三十年祭を喜びの日として迎えられる様、つとめ切りたいと締めくくられた。

教祖130年祭に向かって

新テーマソングの練習に励む

春の鼓笛合同合宿 開催　少年会

少年会笠岡団（武内正美団長）は、3月30日から4月1日まで、毎年恒例の「春の鼓笛合同合宿」を開催、直轄・福山・高屋・島根の各隊より、スタッフ・隊員合わせて100人（隊員70人・係員30人）が参加した。

今回は、夏のこどもおぢばがえりの新しいテーマソング『笑顔ひろがれ！たすけあい』を、ファイフ・鍵盤・キーボード・グロッケン・ドラム・ポンポンなどの各パートに分かれて練習に励んだ。参加者は、合宿を通して同じ笠岡の鼓笛につながる者同士の絆を深めた。

4月1日のおつとめまなび総会後、お供演奏を行った。

お供え演奏

おつとめまなび総会開催

4・1 大教会　少年会

少年会笠岡団（武内正美団長）では、春の恒例行事「おつとめまなび総会」を今年も賑やかに勤めさせて頂きました。少年会員が教会へ一人でも多く参拝をして頂きたいというコンセプトで様々な行事を企画しております。なか

でも「おつとめまなび総会」は、一生懸命覚えたおつとめ発表する場でありますが、少年会を終える方に門出式でお祝いをし、また各ブロックの方々のご協力を頂いて催す模擬店、そして中・高校生のダンス、高価景品が当たるくじ引き大会等でおつとめに参加しない少年会、育成会員にも広く参拝しやすく楽しめる内容になっています。毎年500人を超える参拝者で賑わう人気行事です。

今年は、新たにわかりやすく表現した寸劇を通じて、教祖の教えを伝える事を試みました。恥じらいを捨て仮装し奮闘する委員に、会場から多くの声援(気持ち悪いを含めて)をもらい喜んで頂けたかと思います。

私達は、少年会員に教会は楽しいところというイメージ作りと、併せて教えをかみ砕いて分かりやすく取り次ぐ事を心がけ、将来のおつとめ奉仕人のご守護を願って委員一同努力させて頂いております。どうぞ、多くの方の参拝を心よりお願い致します。

参加者は513人(内、少年会員301人、育成会員212人、受付を通った方以外は、カウントせず)。

(少年会副団長　藤井正仁)

第９回大教会長杯親睦大スポーツ大会開催

大教会長様から「笠岡内でブロックを越えた親睦を深める会を開いて貰いたい」という思いで始まったこの大会も、今年で第９回目を迎えます。今年は**５月２４日（日）**に行います。今年も、多くの方々が参加出来るよう、１チームに**会長さん、５０歳以上の方、女性の方、少年会員**も必ず入るようになっています。尚参加お供えは中学生以上１人５００円となっています。当日は**おいしいカレー**が用意されています。体力に自信のある方も無い方も奮ってご参加下さい。

大会スケジュール

８：３０までに**かさおか古代の丘スポーツ公園第一グランド**集合(**ソフトボール**大会)

（雨天で**ソフトバレーボール**の場合は**８：５０**までに芳井町体育館に集合）

３時頃解散予定です。

← **かさおか古代の丘スポーツ公園第一グランド**の場所は、左のQRコード（駐車場から球場までの地図）にアクセスし、ネットで検索してください。

芳井町体育館の場所は、右のQRコードにアクセスし、ネットで検索してください。 →

ブロックの担当者は

東　ブロック　－　虫明立生さん（陽　備）
福山ブロック　－　福島大介さん（福　満）
高屋ブロック　－　武内清和さん（香地華）
島根ブロック　－　三代幸徳さん（米　府）
久松ブロック　－　中村剛史さん（久　松）
西　ブロック　－　浅野明教さん（ひろさと）
上下ブロック　－　高田一弘さん（眞　府）
府中市ブロック　－　豊田宏哉さん（府中市）

までお尋ね下さい

大会運営委員会

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供かわいいの親心から常に陽気ぐらしが出来るようにと身体の自由と天然自然の御守護を下さっております 分けても今は厳しかった寒さも徐々に和らぎ 春告げ鳥の競い合う鳴声と共に風に暖かみを感じるようになり 野山の草木も次々と芽生え始めて 春の訪れを間近に感じられる季節をお与え下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は報恩感謝の心から日々朝夕に御礼申し上げつつ年祭活動仕上げの年にふさわしい成人の歩みを進めるべく 道の子お互いの丹精とにをいがけおたすけにとたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し頂いた御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝そしてたすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて三月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には今日の日を待ちわびて寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げると共に 持ち寄りました六万二千百八十四枚のおたすけお願いカードを通して人のたすかりを願う皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて三年目の成人目標の徹底をすべく直轄教会に引き続いて部内巡教もさせて頂く事が出来ました 有難うございました いよ〳〵笠岡挙げて成人目標の実動を通して全教会こぞって心定め完遂を目指し 一人ひとり今自分が出来るところからにをいがけおたすけにと精一杯勤め切らせて頂く所存でございます 又今は年度末に当たり子供達は進級・進学 又社会人デビューと期待と不安の心をつのらせています 道の後継者育成の上には絶好の機会ですので 一人でも多くの子供達に本部開催の春の学生おぢばがえりや大教会開催での鼓笛合同練習やおつとめ学び総会への参加呼び掛けをさせて頂く所存でございます 更には又立教百七十年に申し合わせたおつとめ奉仕人増員を果たすには今からでも決して遅くないとの思いを強く持ち たすけ一条の上に邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には 旬々に与えられるたすけ一条の御用の上に力の限りに励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り 救ける方も救けられる方もたすけの感動・感激を味わわせて頂き より一層たすけにいそしむ人が弥増して お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていましたので転載いたします。（敬称略）

▼『天理時報』
▽3月29日付「時報歌壇」
・福満㊐ 福島悦子さん
寿司桶の裏を返せば舅の字
「昭和貳拾参年参月求」
・海松ヶ岡㊐ 藤井光子さん
しらしらと明くる時間のいとおしく
じっと待ち居る日の出の時を
▽4月5日付「時報俳壇」
・海松ヶ岡㊐ 池田広子さん
一面の菜の花が咲く道の駅
▼『陽気』誌四月号「道柳」より転載。
▽佳 詠
・東悠㊐ 田林美智子さん
教祖殿進む回廊子等嬉嬉と
▼表紙写真
（吉岡輝昭かさおか編集部員）

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます 本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くにる刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に笠岡の道を築いて下さった役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 又本日新たにお鎮まり下さいました 岡﨑和夫大人 枝廣茂市大人の神霊 諸々の神霊の前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には教祖を通して親神様の真実の御心とお働きを知り かしものかりものの喜び感謝の心から御恩報じの道をお通り下されました しかしその道は大変厳しいものでありましたが むしろこれこそ因縁納消の道とどんな中も心倒すことなく常に勇み心を持ってたすけ一条にお通り下さいました 今日笠岡の結構な姿をお見せ頂いておりますのは そうした祖霊様方の真実誠の心を親神様教祖にお受け取り頂いた賜物と日々は朝に夕にと御礼申し上げつつ 只今の旬は教祖の年祭に向け笠岡挙げてたすけ一条に邁進させて頂いております

分けても本日は春の霊祭を執り行う日柄でございますので 御前に海川山野の物を供えて 只今はおつとめ奉仕人 代表の部内教会長一同勇んでてをどりをつとめさせて頂きました

御前に寄り集い 有りし日の面影を偲び御遺徳を称える皆の真実の状を御覧下さいまして 御心をお安め下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百三十年祭に向けての年祭活動もいよ〳〵三年目に入りました 仕上げにふさわしい一年にしようと一月の直轄教会に続いて二月三月と部内巡教をさせて頂いて三年目の成人目標の徹底を図らせて頂きました 「おたすけの感動・感激を味わう」為に心定め完遂という成果を目指し 一人ひとりが今日出来る声掛けおたすけの実動に邁進する事を誓い合わせて頂きました

何卒祖霊様方には 御心安らかにお見守り下さいまして 一万人のおぢばがえりや十月二十五日の別席ひのきしん団参に一人でも多くの別席者帰参者が御守護頂けますようお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

第８９０期修養科募集要項

＊修養科期間

立教１７８年６月１日～８月２７日

＊教　養　掛

３ヶ月間	北　川　治　史	(稲 倉 分教会長)
１ヶ月目	下　田　誠　輝	(神 村 分教会長)
２ヶ月目	髙　田　一　弘	(真 府 分教会長)
３ヶ月目	仙　田　公　男	(天場山分教会長)

＊募集要項

・志願者は、６月末日現在で満１７歳以上で、必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。

・５月２５日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。

・３ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、８月２９日午前１０時に解散。

立教百七十八年 三月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	門脇元教
	田中隆之

講話	吉岡壽

役割／区分	坐り勤	前半	後半
地方	中村剛	吉岡壽	佐藤道孝
	笹尾正治	今川昌彦	中島誠治
	高木昭祥	中村道徳	渡邉隆夫
おつとめをどり	大教会長様	中村邦義	中村剛
	岡本久善	岡﨑真一	上原志郎
	上原繁道	田中隆之	中村道徳
	大教会奥様	上原順子	岡﨑豊子
	田中ますみ	内海安子	高木孝子
	門脇郁子	中村初美	横山小智榮
笛	横山逸郎	山野弘実	虫明立生
ちゃんぽん	三島渉	武内清明	上原繁次
拍子木	森本忠平	森本忠善	赤木素志
太鼓	門脇元教	山田敏教	田林久嗣
すりがね	谷内伸自	吉岡誠一郎	淺野明教
小鼓	上原志郎	上原浩	内海史郎
琴	虫明好美	佐藤香苗	門脇加津
三味線	上原順子	武内正美	三島照美
胡弓	今川佐智子	森本冨美子	笹尾一美
控え	佐藤真孝		

五月講話	縦の伝道講習会

賛者	山田敏教
	田林久嗣
指図方	上原繁道

立教百七十八年 春季霊祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	岡﨑真一
	三島渉

役割／区分	前半	後半
地方	中村剛	田林久嗣
	今川昌彦	時宗一実
	山野弘実	村川和司
おつとめをどり	大教会長様	西村彦一
	上原繁道	三島順教
	中村邦義	竹本和道
	大教会奥様	武内正美
	田中ますみ	門脇加津
	上原順子	高木孝子
笛	内海史郎	吉岡輝昭
ちゃんぽん	虫明立生	田中一矩
拍子木	佐藤真孝	佐藤憲美
太鼓	吉岡誠一郎	高信正人
すりがね	上原繁次	貞清知実
小鼓	森本忠善	武内清和
琴	虫明好美	内海安子
三味線	佐藤香苗	森本冨美子
胡弓	岡﨑豊子	三島照美

賛者	上原浩
	淺野明教
指図方	吉岡壽

お知らせ

●屋内全面禁煙のお願い

笠岡大教会・笠岡詰所においては、健康増進法に定める受動喫煙防止のため、平成27年3月29日より、屋内での喫煙を全面的に禁止いたしました。

今後は、左記の喫煙所をご利用ください。

▼笠岡大教会 喫煙所

・神事所　南側ベランダ
・談話室入口西側
・講堂横玄関南側

▼笠岡詰所 喫煙所

・南棟1階ホール北側ベランダ
・南棟2階中央階段北側ベランダ
・南棟3階中央階段北側ベランダ

行事案内

●縦の伝道講習会

期日　5月21日(木)
祭典講話に代えて

講師　此花大教会長
田邊大治先生

大教会だより

◎三日講習会修了者

立教178年3月22日終講
高屋秀平元一
福廣佐々木倫子

◎教人資格講習会修了者

前期　立教178年3月31日終講
芦常澤田貴美恵

立教178年4月10日終講
神昭渡邉いづみ

◎教会長資格検定講習会修了者

立教178年4月19日終講
弥髙山岡﨑治喜

音楽プロジューサーのつんく♂さんが四月四日、母校の近畿大学で開かれた入学式にゲストとして登場し、ガンの治療のため声帯を摘出して声を失った事を明かされました。スクリーンにお祝いのメッセージが流された中に「こんな私だから出来る事」「こんな私にしか出来ない事」という一文があり、この言葉に今私たちが迎えようとしている教祖百三十年祭に向けての大きな活動目標の一つと重ねた人も少なくないのではないかと思います。声を失うという現実を余儀なくされても、形を変えて同じ道を前向きに歩んでゆくという決断をされ今の環境の中で今の自分に出来る事を模索しながら迷わず進もうとする姿に大変感動させられました。私たちよふぼくも年祭活動の残り九ヶ月間をどの様な環境の中にあってもその状況に応じて教祖の心に自分の心を合わせ、このたすけの旬に自分の周りを今一度見つめ直して身近なところからアンテナの周波数を切り替えながら人と接してゆく事が大切であり、動きのあるところにこれからのお道の未来の姿をお見せ頂ける今の時旬だと心引き締めてつとめたい、とメッセージの中から改めて気付かされました。

（虫）

・原・稿・募・集・

内容　①小随筆　②教会・布教所の独自の活動の紹介　③俳句・和歌・川柳　④教会行事開催後の報告記事 等々

字数　１０００字前後（８００字～１２００字）題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

昭和48年（1973年）立教136年

この年は、一月諭達が発布され、教祖九十年祭へ向けてのよふぼく信者の心構えを明示された。更に二月に入って、諭達本部巡教があり、笠岡では本部員・平野知一先生を迎えての講習会となった。いよいよ九十年祭へ向けての三年千日の歩みが始まったのである。又、梅華会による中華民国親善訪問が始まり、大教会三代会長・上原繁雄は戦時中、台湾伝道庁長を勤めた事もあって梅華会団長として出席し、以後十回にわたり中華民国を訪問した。

この年の大教会年間統計　初席者七百八十人　おさづけの理拝戴者五百二十九人　修養科修了者百九十三人　教人登録百九十二人　教人総数一千九百八十六人　よふぼく総数九千三十三人。全教よふぼく総数六十八万一千四百三十八人。

昭和49年（1974年）立教137年

教祖九十年祭三年千日第二年目

「かさおか」誌一月号から転載

をやにお喜び頂くために

年頭会議に出席して

大教会年頭会議は、恒例によって昭和四十九年一月九日午前十時から、大教会において行われましたが、年祭活動第二年目の本年こそ、各自の身に、家に又教会に、結構なご守護を頂き、をやの御思いに応えたいものと、期待に溢れて大教会に帰らせて頂いたのは、大教会役員、つとめ人をはじめ教会長、布教所長その他四百人を上回る数でした。

大教会長様の年頭のごあいさつは、真柱様の時旬に対する御思いがどこにあるか、その思いを戴いて本年の歩みを如何に進めて行くかという事に終始したのであります。

昭和49年　（1974年）　立教137年

——をやの思いを戴いて本年の足取りをさせて頂くべく、更に過去一年の事を振り返り、思い返して大教会の歩みを固めたい。

そうして昭和四十七年十月二十六日秋季大祭の神殿講話、翌十一月二十六日月次祭後、会議においてのごあいさつ、そして明けて昭和四十八年一月春季大祭に御発表頂いた諭達第二号及びその時の神殿講話、更に昨年十月秋季大祭の際の神殿でのお話、引き続いて翌二十七日、年祭準備委員へのお言葉、そして本年一月五日年頭のごあいさつと、真柱様の御心そのままにお聞かせ頂いたのであります。

——年祭活動は一昨年即ち昭和四十七年十月、秋の大祭に真柱様のお言葉を戴いた時から始まっている——との大教会長様の一言を聴いて、胸に五寸釘を打たれるような感じがしたのは私だけだったでしょうか？

恥ずかしい事ですが、年祭活動は諭達のご発表のあった昭和四十八年一月二十六日からだと思っておりました。この一つの事を考えただけで、折角有り難い時旬を迎えながら、うっかりと日を過ごした事が悔やまれてならないと同時に、言われても話されても、自分の思い通りにしか受け取っていない自分を今更の如く反省したのであります。

——私達はとかく、をやの思いを解せないで、私達の成人の足りなさに気づかないで、素直になれず、ともすれば、をやが私達の思いとかけ離れている事を不平、不足に思い勝ちである。教祖が親神様の思召通りに歩まれたのがひながたであるならば、私達は何よりもまず、素直にをやの思いを実行する意志を持たねばならない。更に、年祭の由来が、親神の思いと我々人間の思いの違いから生じた事、史実に基づいて言うならば、教祖にお元気になって頂きたい上か